3) Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. 67th ACR Annual Meeting, Orlando, U.S.A., October, 2003

4) Shiraishi K, Yoshimoto K, Abe T, Tsuzaka K, et al. The EULAR annual congress of rheumatology, Berlin, Germany, June, 2004

5) Tsuzaka K, Setoyama Y, Yoshimoto K, et al. American College of Rheumatology, 68th ACR Annual Meeting, San Antonio, U.S.A., October, 2004

[国内]

1) 津坂憲政、安倍達、竹内勤。第 46 回日本リウマチ学会総会, 2002 年 4 月。

2) Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. (国際ワークショップ) 第 47 回日本リウマチ学会総会, 2003 年 4 月。

3) 津坂憲政、瀬戸山由美子、吉本桂子、他。第４８回日本リウマチ学会総会, 2004 年４月。

4) 津坂憲政。第 13 回日本リウマチ学会近畿支部学術集会（シンポジウム）、2003 年 9 月。

5) 福原いずみ、津坂憲政、瀬戸山由美子、他。第３１回日本臨床免疫学会総会。2003 年10 月

6) Tsuzaka K.（国際シンポジウム）第 32 回日本臨床免疫学会総会。2004 年 10 月。

7) Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. 第 32 回日本免疫学会総会、2002 年 11 月。

8) Tsuzaka K, Fukuhara I, Setoyama Y, et al. 第３３回日本免疫学会総会、200３年１２月。

9) Tsuzaka K, Nozaki K, Kumazawa C, et al. 第３４回日本免疫学会総会、2004 年１２月。

H. 知的財産権の出願・登録状況

１．特許取得

なし

２．実用新案登録

なし

３．その他

なし

図表の説明文

図1．鋳型 DNA となる US27, US28 cDNA の作製。HCMV 血症患者末梢血リンパ球より RT-PCR 法で US27 cDNA, US28 cDNA をそれぞれ増幅し、pCRII vector に組み込み、BamHI あるいは XhoI で linear DNA とし、in vitro transcription の鋳型 DNA とした。

図2．*In situ* hybridization 法による HCMV 肺炎患者肺組織での US27・US28 タンパクの発現検討。US27, US28 antisense RNA probe を用いた *in situ* hybridization で US27・US28 タンパク発現が認められた（矢印）。

図3. MPA 患者治療前後の unsubtracted tester DNA (U)ならびに subtracted tester DNA (S) を鋳型 DNA として、US27 ならびに US28 cDNA cDNA 特異的プライマーを用いて RT-PCR を行った。その結果、US27, US28 mRNA ともに unsubtracted tester DNA ならびに治療後 subtracted tester DNA では検出されなかったが、治療前 subtracted tester DNA 中に検出された。

図1.

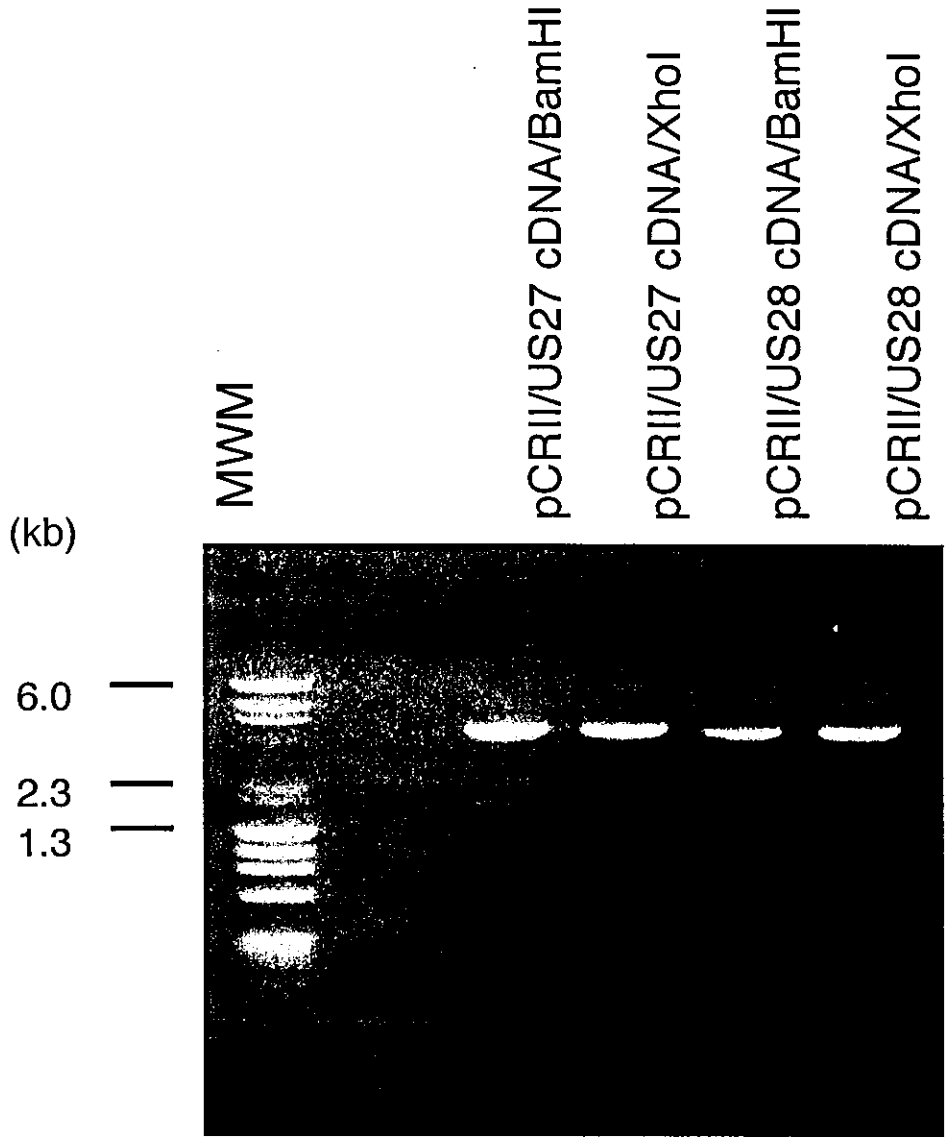
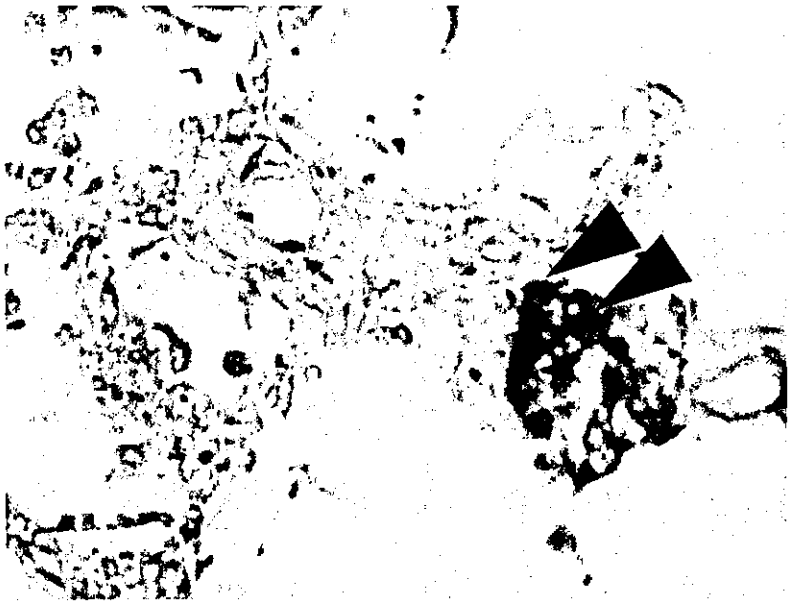

(kb)
6.0
2.3
1.3
MWM
pCRII/US27 cDNA/BamHI
pCRII/US27 cDNA/XhoI
pCRII/US28 cDNA/BamHI
pCRII/US28 cDNA/XhoI

図2.

US27



US28

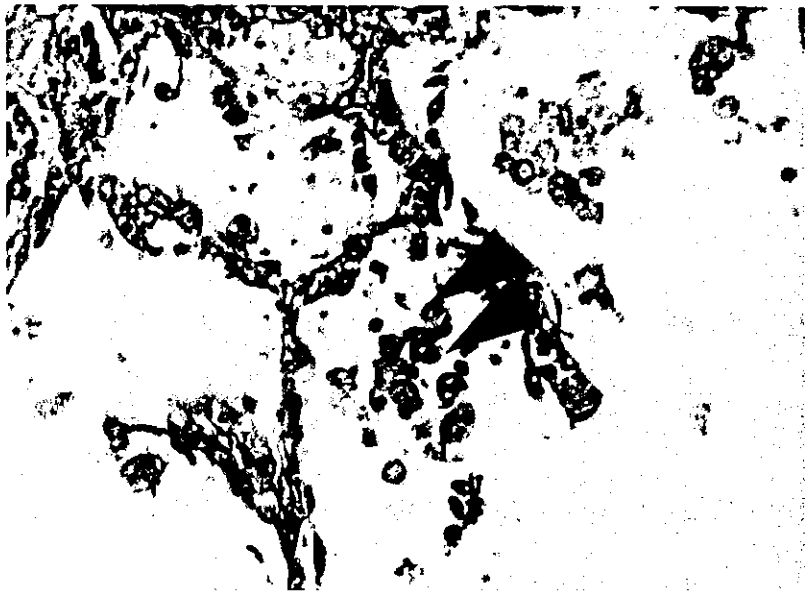
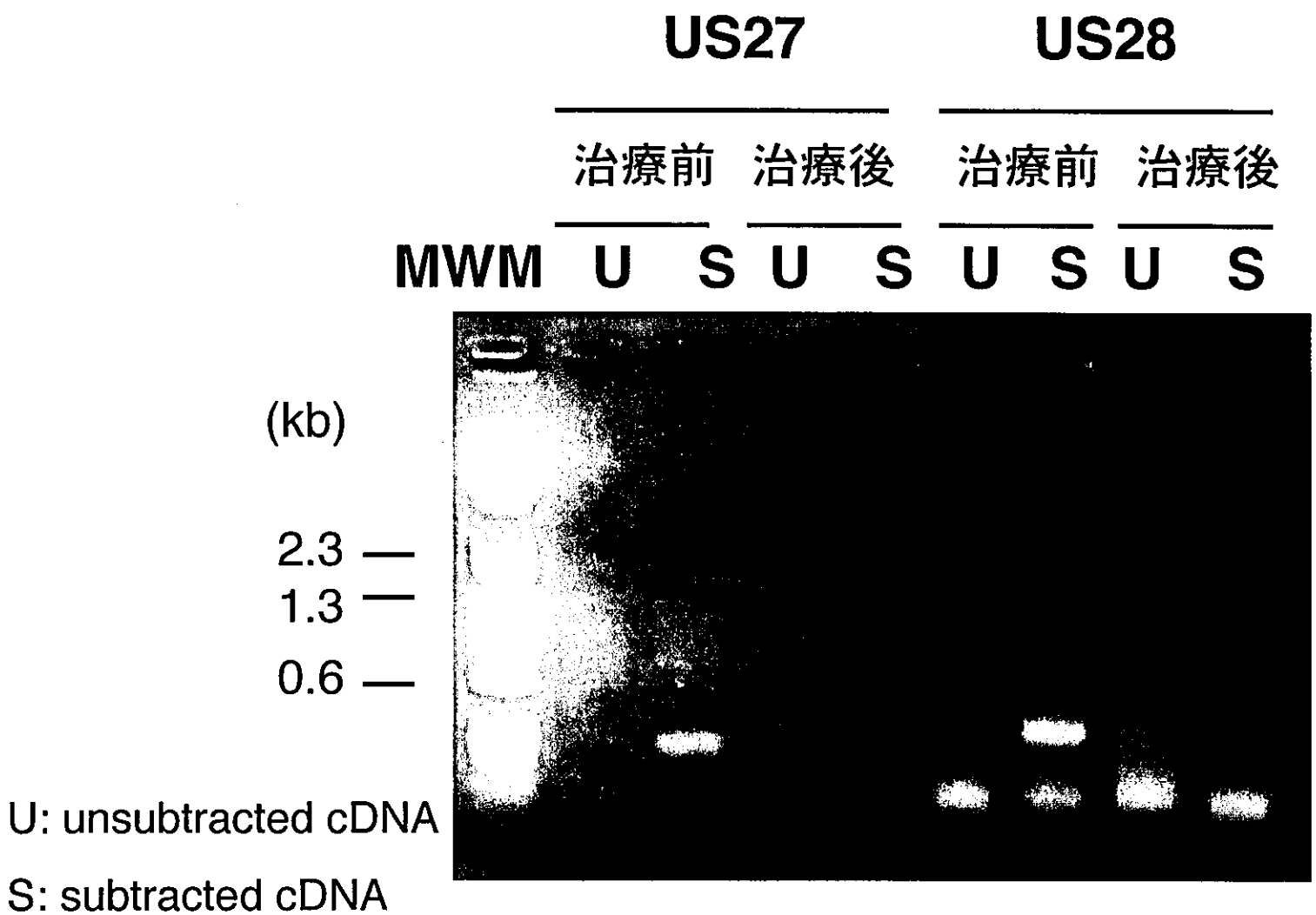


図3.


US27
US28
治療前
治療後
治療前
治療後
MWM
U
S
U
S
U
S
U
S
(kb)
2.3
1.3
0.6
U: unsubtracted cDNA
S: subtracted cDNA

厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

平成 14.15.16 年度　MPO-ANCA 関連血管炎に関する分担研究報告書

分担研究者　中林公正　杏林大学第一内科教授

研究協力者　福岡利仁、有村義宏、山田　明

研究要旨

MPO-ANCA 関連血管炎の臨床病型を、全身型、肺腎型、腎限局型、その他型に分類することが重要であることを従来より述べてきた。中でも①肺腎型を他の肺腎症候群を呈する疾患から明瞭に鑑別診断すること、②誤診され易いその他型の内の筋・関節型を正確に診断すること、③夫々の臨床病型と生命予後・死因との関係を解析することが重要と考えられた。以上の理由から、MPO-ANCA 関連血管炎の肺腎型を Goodpasture 症候群、MPO-ANCA・抗 GBM 抗体併存肺腎症例、IC 型肺腎症例と比較検討した。その結果、Goodpasture 症候群や併存症例に比較して MPO-ANCA 関連血管炎は、高齢者に多く腎不全に至る迄の期間が長期であることに特徴があった。半月体形成率も 10～100％に分布し、多彩であった。次に PMR や多発性筋炎と誤診され易い筋・関節型を解析した。その結果、此れ等の症例は著明な腓腹筋病を認める、血清 CK の上昇は認めない、RA 因子陽性、筋生検で筋線維間の小血管に壊死性血管炎を認めるなどの特徴を有していることを明らかにした。臨床病型と生命予後・死因に関しては、全身型は死亡率 45％で血管炎死が 90％を占め、肺腎型は死亡率 40％で血管炎死・感染症死が夫々50％・50％を占めていた。両病型とも疾患発症 6 ヵ月以内に死亡する症例がほとんどであった。

A. 研究目的

MPO-ANCA 関連血管炎の臨床像を明らかにし、その生命予後を改善し、治療法を開発することを目的とした。

B. 研究方法

杏林大学第一内科で治療を施行した MPO-ANCA 関連血管炎の 67 例を対象として、夫々の症例を臨床病型に分け、生命予後、死因、検査成績、生検組織について検討を行った。尚、臨床病型の中で肺腎型を他の肺腎症候群（Goodpasture 症候群、抗 GBM 抗体併存群、IC 型）と比較検討した。又、その他型の筋・関節型は PMR や多発性筋炎と誤診されることが多いので、その特徴を解析した。

C. 研究結果

肺腎症候群では、MPO-ANCA 関連血管炎は Goodpasture 症候群や抗 GBM 抗体

併存症例に比較して同じ RPGN の経過でも、長い経過を取る症例が多いこと、かつ腎の半月体形成率が低い症例の多いことが、解明された。その他型の筋・関節型では、PMR や多発性筋炎と異なり、腓腹筋の激痛を認めること、血清 CK の上昇（－）、RA 因子（＋）、筋生検で壊死性血管炎を認めることなどに特徴があった。MPO-ANCA 関連血管炎の臨床病型と生命予後・死因に関しては、全身型、肺腎型は発症後 6 ヵ月以内に死亡する症例が夫々45％、40％を占めていた。死因は全身型は 90％が血管炎死であり、肺腎型は 50％が血管炎死、50％が感染症死であった。腎限局型、その他型の死亡率は、夫々10％でありその死亡時期は疾患慢性期の 12 ヵ月以上経過した時期であった。死因は、偶発症であった。

D. 考察・E. 結語

MPO-ANCA 関連血管炎の全身型、肺腎型は発症 6 ヵ月以内に 45～40％が死亡する重篤な疾患であることから、血管炎の早期治療法を開発し、減少させる必要がある。又、肺腎型では感染症の死亡も多いことから、感染症に対する治療法も必要である。肺腎型では、他疾患による肺腎症候群との鑑別も重要である。又、その他型の中の筋・関節型は、PMR や多発性筋炎との鑑別も重要である。以上の事項を念頭に置き、MPO-ANCA 関連血管炎を正確に早期に診断し、治療を適格に行い、生命予後を改善させる必要がある。

G. 研究発表

1.Kimura Y, Matsuzawa S, Arimura Y, Soejima A, Nakabayashi K, Yamada A : azurocidin-specific ANCA related idiopathic necrotizing crescentic glomerulonephritis. Am J Kidney Dis 2004 ; 43 : 7~10.

2.Kuroda T, Yoshida Y, Kamiie J, Kovalenko P, Nameta M, Fujinaka H, Yaoita E, Endo T, Ishizuka S, Nakabayashi K, Yamada A, Nagasawa T, Yamamoto T : Expression of MMP-9 in mesangial cells and its changes in anti-GBM glomerulonephritis in WKY rats. Clin Exp Nephrol 2004 ; 8 : 206~215.

3.長田道夫、槙野博史、秋草文四郎、今井裕一、北村博史、重松秀一、杉崎徹三、城　謙輔、田口　尚、中野正明、中林公正、横山　仁、山口　裕：ループス腎炎病理診断の新しい分類—INS/RPS 2003 年改訂分類の要点と診断マニュアル—.日腎誌 2004 ; 46 : 383~395.

4.福岡利仁、中林公正：特集　ネフローゼ症候群.　原因病態別考察：膠原病、血管炎、日本臨床　2004 ; 62 : 1898~1906.

5.吉原　堅、宝亀恵美子、中林公正：血管炎をきたす疾患の鑑別診断と治療　肉芽腫性血管炎をみる疾患.リウマチ科 2004 ; 31 : 458~467.

6.福岡利仁、中林公正：Goodpasture 症候群.腎臓ナビゲーター（浦　信行、柏原直樹、能谷裕生、竹内和久編）、メディカルビュー社、東京・大阪、2004.P152~153.

7.中林公正、本田恒雄：結節性多発動脈炎.インフォームドコンセントのための図

説シリーズ　その他の膠原病（竹原和彦、近藤啓文編、医薬ジャーナル社)、大阪・東京、2004.P68~73.

8.福岡利仁、中林公正：抗リン脂質抗体症候群．臨床と研究　2004；81：265~270.

学会発表

1.大和恒恵、中林公正、山田　明、長澤俊彦:下肢に難治性潰瘍を繰り返し、PGE1治療が有効であった Buerger 病と考えられる女性症例．第 24 回関東・甲信越 MMC 研究会、東京、2004.2.21.

2.早川　哲、軽部美穂、児島千恵子、副島昭典、有村義宏、中林公正、山田　明：免疫複合体により毛細血管炎を生じ、間質性腎炎を呈したと思われるループス腎炎の１症例．第 8 回腎間質障害研究会、東京、2004.9.11.

3.中林公正:七隈セミナー　特別講演　血管炎症候群の多彩な臨床症状とその診断法について、第 11 回七隈膠原病セミナー福岡、2004.6.25.

4.大和恒恵、中林公正、有村義宏、山田　明、長澤俊彦：下肢に難治性潰瘍を繰り返し、Buerger 病と考えられた女性症例．第 9 回　血管病理研究会、東京、2004.10.23.

5.佐藤美玲、有村義宏、川嶋聰子、宝亀恵美子、大和恒恵、吉原　堅、中林公正、山田　明：MPO-ANCA 陽性 Wegener 肉芽腫症と思われた 2 症例．第 521 回　日内会関東地方会、東京、2004.10.9.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
分担研究報告書

薬剤によるマウス皮膚由来血管内皮細胞株 F-2 の細胞死誘導に関する研究

分担研究者：古川福実（和歌山県立医科大学皮膚科教授）

研究要旨：血管内皮細胞の研究に際しては、材料に限りがあり、安定な細胞株がなかなか得られないという難点があった。共同研究者である戸田らが樹立した F-2 は、血管内皮としての細胞学的特徴を有し、血管内皮細胞の研究材料として貴重なものであると考えられた。そこで、平成 14 年度は、F-2 が樹立された経緯やその特性についてまとめた。平成 15 年度および平成 16 年度は、薬剤による F-2 のアポトーシス誘導について検討した。平成 15 年度は、血管炎を誘発する薬剤に、平成 16 年度は、血管炎の治療薬に着目し、薬剤が誘導する血管内皮細胞のアポトーシスの一端を明らかにした。

A. 研究目的

血管内皮細胞のアポトーシス誘導機構は、いまだ不明な点も多い。われわれは、血管炎と密接にかかわる薬剤が、皮膚の血管内皮細胞におよぼす効果を、主としてアポトーシスの観点から、in vitro の系で検討した。

B. 研究方法

マウス皮膚由来血管内皮細胞株 F-2 を 5%FBS を含む DMEM で培養し、細胞増殖や DNA 断片化を ELISA で定量した。カスパーゼの活性については、蛍光基質の切断により生じるを発色の測定や、ウェスタンブロットによる基質断片の検出により検討した。さらに、アポトーシス制御蛋白の発現の推移についても検討を加えた。

C. 研究結果

血管炎を誘発することのあるヒドララジンや血管炎の治療薬として用いられることのあるシクロホスファミドは、ともに、F-2 の DNA 断片化やカスパーゼ 3 活性を亢進し、アポトーシスを誘導していると考えられた。さらに、シクロホスファミドによる刺激では、Bax の亢進が認められ、ミトコンドリアを介した経路が関与している可能性が考えられた。また、両薬剤は、TNF-α が惹起する DNA 断片化やカスパーゼ 3 活性の亢進を増強した。

D. 考察

血管炎では、TNF-α などの炎症性サイトカインの産生が亢進していると考えられるが、血管炎の発症や収束に、血管内皮細胞のアポトーシスがかかわっているか否かは明らかでない。アポトーシスの亢進は、血管傷害を助長する側面がある一方、血管の炎症を抑制するという側面も考えられる。皮膚の血管内皮細胞は、TNF-α 共存下、ヒドララジンあるいはシクロホスファミドにより、アポトーシスを生じやすく、それぞれが、血管炎の経過に異なった

役割を果たしている可能性も考えられた。

E. 結論

F-2 は、血管内皮細胞としての特徴を保持し、血管炎など、血管に由来する疾患の解析に有用であると考えられる。ヒドララジンおよびシクロホスファミドは、カスパーゼ 3 を介して、F-2 のアポトーシスを誘導し、TNF-αが惹起する血管傷害を修飾していると考えられた。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yoshimasu T, Ohtani T, Sakamoto T, Ohshima A, Furukawa F: Topical FK506 (tacrolimus) therapy for facial erythematous lesions of cutaneous lupus erythematosus and dermatomyositis, Eur J Dermatol 12: 50-52. 2002

2. Ito T, Seo N, Yagi H, Ohtani T, Tokura Y, Takigawa M, Furukawa F: Unique therapeutic effects of the Japanese-Chinese herbal medicine, Sairei-to, on Th1/Th2 balance of the autoimmunity of MRL/lpr mice. J Dermatol Sci 28: 198-210, 2002

3. Yoshimasu T, Hiroi A, Ohtani T, Uede K, Furukawa F: Comparison of anti 60-kD and 52-kD SS-A/Ro antibodies in the pathogenesis of cutaneous lupus erythematosus, J Dermatol Sci 29: 35-41, 2002

4. Sakurane M, Shiotani A, Furukawa F: Therapeutic effects of antibacterial treatment for intractable skin diseases in Helicobacter pylori-positive Japanese patients. J Dermatol 29:23-27, 2002

5. Ohtani T, Furukawa F:Pseudoxanthoma elasticum: report of case without any mutations in 5 exons of MRP6 gene, J Dermatol 29: 46-47, 2002

6. Koide M, Shirahama S, Tokura Y, Takigawa M, Hayakawa M, Furukawa F: Lupus erythematosus associated with C1 inhibitor deficiency. J Dermatol 29 :503-507, 2002

7. Sakamoto T, Hashimoto T, Furukawa F: Pyoderma gangrenosum in a patient with bullous lupus erythematosus. Eur J Dermatol 12 : 485-487, 2002

8.Yamamoto Y, Yonei N, Kaminaka C, Kishi T, Uede K, Furukawa F: Chemical peeling for the aged patients with skin cancer . Proc. the 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology p75, 2002

9. Kishi T, Yamamoto Y, Furukawa F: A case of fascciitis panniculitis syndrome. Proc. the 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology p35, 2002

10.Furukawa F, Yoshimasu T, Ohtani T, Ikeda K, Nishide T, Uede K: Topical tacrolimus therapy for lesions of cutaneous lupus erythematosus reply to the comments of Drs. Walker, Kirby and Chalmers. Eur J Dermatol 12: 389, 2002

11. Uede Koji, Hiroi Akihisa, Nakamura Tomoyuki, Kishi Tomoo, Yamamoto Yuki,

Furukawa Fukumi: Low dose Ultraviolet A1 (340-400 nm) phototherapy for erythrodermic cutaneous T-cell lymphoma, J Photoscience 9: 503-505, 2002
12. Yoshimasu T, Hiroi A, Ohtani T, Uede K, Furukawa F: Cytokine productions of a model for fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR a chain knockout mouse, J Photoscience 9: 494-496, 2002
13. Tanaka A, Hiroi A, Kanehara S, Yamamoto Y, Uede K, Furukawa F: Sebaceous nevus with a striated muscle hamartoma, J Dermatol 29: 754-756, 2002
14. Yamamoto Y, Uede K, Ueda M, Furukawa F: Characterization of monoclonal anti-human skin basal cell antibody 3B4-6 and its reactivity to the skin peeled with phenol or trichloroacetic acid (TCA). Aesthet Dermatol 12: 70-76, 2002
15. Yoshimasu T, Hiroi A, Ohtani T, Uede K, Furukawa F: Discoid lupus erythematosus-like skin lesions in C57BL/6J mice treated with fluorouracil and UVB light. Jpn J Dermatoallergol 10: 161-169, 2002
16. Wakita H, Yamamoto Y, Furukawa F: Aberrant suprabasal P-cadherin expression in acanthotic but not psoriatic thickened epidermis. Arch Dermatol Res 295 (suppl 1): S71-S74, 2003
17. Yamamoto Y, Uede K, Yonei N, Kaminaka C, Furukawa F: Expression of tenascin and human β-1 integrin in the skin peeled with phenol or trichloroacetic acid. Aesthet Dermatol 13: 17-24, 2003
18. Ohtani T, Hiroi A, Sakurane M, Furukawa F: Slow acetylator genotypes as a possible risk factor for infectious mononucleosis-like syndrome induced by salazosulfapyridine. Br J Dermatol 148: 1035-1039, 2003
19. Uede K, Furukawa F: Skin manifestation in acute arsenic poisoning from the Wakayama curry-poisoning cases. Br J Dermatol 149:757-762, 2003
20. Yamamoto Y, Uede K, Ohtani T, Wakita W, Furukawa F: P-cadherin expression in skin peeled with phenol or trichloroacetic acid (TCA). J Dermatol 30:920-923, 2003
21. Hiroko Shimomura, Yukiho Nakase, Hiroto Furuta, Masahiro Nishi, Taisei Nakao, Tadashi Hanabusa, Hideyuki Sasaki, Katuyuki Okamoto, Fukumi Furukawa, Kishio Nanjo: A rare case of autoimmune polyglandular syndrome type 3. Diabetes Research and Clinical Practice 61:103-108, 2003
22. Seo N, Furukawa F, Tokura Y, Takigawa M: Vaccine therapy for cutaneous T-cell lymphoma, Hematology/oncology clinics of North America, cutaneous lymphomas, Foss FM and Demierre M-F (eds), W.B. Saunders Company, Philadelphia, 1467-1474, 2003
23.Fukumi Furukawa: Photosensitivity in cutaneous lupus erythematosus: lessons from mice

and men, J Dermatol Sci 33: 81-89, 2003
24. Uede K, Yamamoto Y, Furukawa F. Brooke-Spiegler syndrome associated with cylindroma, trichoepithelioma, spiradenoma and syringoma. J Dermatol 31: 32-8, 2004.
25. Ikeda T, Uede K, Hashizume H, Furukawa F: The vitamin A derivative etretinate improves skin sclerosis due to systemic sclerosis. J Dermatol Sci 34: 62-66, 2004
26. Yoshimasu T, Seo N, Hiroi A, Nishide T, Ohtani T, Uede K, Furukawa F: Susceptibility of TCRα chain knockout mice to ultraviolet B light and fluorouracil: a novel model for drug-induced cutaneous lupus erythematosus. Clin Exp Immunol 136:245-254, 2004
27. Furue M, Terao H, Moroi Y, Koga T, Kubota Y, Nakayama J, Furukawa F, Tanaka Y, Katayama I, Kinukawa N, Nose Y, Urabe K: Dosage and adverse effects of topical tacrolimus and steroids in daily management of atopic dermatitis. J Dermatol 31: 277-283, 2004
28. Minami Y, Uede K, Sagawa K, Kimura A, Tsuji T, Furukawa F: Immunohistochemical staining of cutaneous tumors with G-81, a monoclonal antibody to dermcidin. Br J Dermatol 151:165-169, 2004
29. Ohtani T, Okamoto K, Kaminaka K, Kishi T, Sakurane M, Yamamoto Y, Uede K, Kubo K, Kuroyanagi Y, Furukawa F: Digital gangrene associated with idiopathic hypereosinophilia: treatment with allogeneic cultured dermal substitute (CDS). Eur J Dermatol 14: 168-171, 2004
30. Yamamoto Y, Yonei N, Kaminaka C, Kishioka A, Uede K, Furukawa F : Effects of phenol peeling on dermal endothelial cells. J Dermatol Sci 35: 158-161, 2004
31. Ikeda T, Sakurane M, Uede K, Furukawa F: A case of symmetrical leukemia cutis on the eyelids complicated by B-cell chronic lymphocytic lymphoma. J Dermatol 31:560-563, 2004
32. Shiotani A, Sakurane M, Furukawa F: Helicobacter pylori-positive patients with pruritic skin diseases are at increased risk for gastric cancer. Aliment Pharmacol Ther 20(Suppl. 1): 80-84, 2004
33. Shigeo Shinohara, Junko Kamimura, Fumiki Harano, Hideo Tanaka, Sachiyo Igarashi, Mitsuaki Kawamura, Sigekatsu Kawabata, Osamu Takasu, Kohsaburo Wakamatsu, Masahiko Tanaka, Misato Yago, Yasuo Furuta, Noboru Yoshino, Fukumi Furukawa, Makoto Kawasihama, Yoshiki Miyachi: Skin-lightening effects based on accelerated epidermal turnover. Abstract book of The 8th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, 131-132, 2004
34. Kishi T, Toyozawa S, Sakurane M, Furukawa F: A case of metastatic lesion of melanoma reduced by ultrasound-guided ethanol injection therapy, Abstract book of The 8th China-Japan Joint Meeting of

Dermatology, 111, 2004
35.貴志知生，山本有紀，上出康二，古川福実，中峰寛和、岩月啓氏：Blastic NK cell lymphoma の１例．皮膚の科学　1: 123-126, 2002
36. 櫻根幹久、古川福実：小児汎発性膿疱性乾癬に対する予後アンケート調査，臨床皮膚　56：199-202，2002
37. 西出武司、山本有紀、古川福実：皮膚アミロイドーシス、皮膚病診療 24：161-164，2002
38. 武内明子、大谷稔男、吉益 隆、阪口順、古川福実、駒井礼子、橋本　隆：伸縮ネット包帯に一致してケブネル現象を示した水疱性類天疱瘡、皮膚科の臨床 44: 492-493, 2002
39. 古川福実他（高濃度 TV-20 軟膏乾癬研究会）：高濃度 TV-02 軟膏の尋常性乾癬を対象とした後期第 II 相臨床試験ー濃度比較二重盲検左右比較試験ー，西日本皮膚科　64:88-104, 2002
40. 古川福実他（高濃度 TV-20 軟膏乾癬研究会）：高濃度 TV-02 軟膏の尋常性乾癬に対する有効性，安全性の検討ータカルシトール軟膏との二重盲検左右比較試験（第 III 相臨床試験）ー，64:119, 2002
41. 西出武司、古川福実：アトピー性皮膚炎とよく似た臨床像の他疾患．皮膚筋炎、Visual Dermatology 1:144-145, 2002
42. 山本有紀、古川福実：アトピー性皮膚炎とよく似た臨床像の他疾患．SLE?、Visual Dermatology 1:154-155, 2002
43. 相生章博、古川福実：心理的ストレスが皮膚防御機構に及ぼす影響　－過密ストレス負荷マウスモデルを用いた検討-、和歌山医学、53-2：113-120、2002
44. 瀧川雅浩、古川福実、今泉俊資、田中信、五十嵐晴巳、古川富紀子、小粥雅明、橋爪秀夫、佐地良文、勝股道夫、富田浩一、須藤晴美、杉浦丹、坂本泰子、堀口大輔、浦野聖子、田中一臣：アトピー性皮膚炎に対する塩酸エピナスチンの有用性、新薬と臨床、51: 447-457, 2002
45. 竹原和彦、飯塚　一、中川秀己、川島　眞、塩原哲夫、江藤隆史、古川福実、松永佳世子、橋本公二、古江増隆：日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎治療問題委員会活動報告書、日本皮膚科学会誌 112：1083-1087, 2002
46. 上出康二：反転性毛包角化症，Visual Dermatology 1: 616-617，2002
47. 岸岡亜紀子、上出康二、古川福実：丹毒, Visual Dermatology 1: 864-865, 2002
48. 浜　喜和、上出康二、山本有紀：猩紅熱，Visual Dermatology 1：866-867，2002
49. 中村智之、山本有紀、上出康二、古川福実：原発性皮膚髄膜腫の１例、皮膚科の臨床　44：1103-1105,2002
50. 古川福実、池田高治、滝川雅浩、片山一朗、天満美輪、濱崎洋一郎：皮膚科領域におけるステロイド使用とステロイド骨粗鬆症に対する予防的治療の実態．西日本皮膚科 64: 742-745, 2002
51. 岡本勝行、三輪英人、神吉しづか、高木理恵子、前島伸一郎、近藤智善：右視床出血後に 48 時間周期で反復するうつ病相と病相依存症の不随意運動を呈した 1 例、脳神経　54：595-599.2002
52. 小谷真弓、藤田晃人、森脇真一、滝川雅浩、古川福実：緑色ジュースの

ひと及び NC/Nga マウスにおけるアトピー性皮膚炎への作用．日本美容学会雑誌 12: 93-102, 2002
53. 櫻根幹久，古川福実: Q-switched ruby laser が有効であったアトピー性皮膚炎の dirty neck の１例，日本美容皮膚科学会雑誌 12: 89-92, 2002
54. 米井　希、山本有紀、上中智香子、古川福実、宮崎孝夫、鈴木陽子、古川富紀子：尋常性ざ瘡、毛孔性性苔癬、アトピー性皮膚炎の dirty neck に対するケイセイ jorbi GA ジェルの使用経験、日本美容皮膚科学会雑誌 12:103-108, 2002
55. 三木田直哉、櫻根幹久、上出康二、古川福実：乾癬性紅皮症の cyclosporine による維持療法中に生じた Malignantmelanoma の死亡例，第 17 回日本乾癬学会記録集，104-105, 2002
56. 米井　希、山本有紀、廣井彰久、上出康二、古川福実：多彩な組織所見を呈した結節型基底細胞癌の１例、Skin Cancer 17: 254-258, 2002
57. 古川福実：結節性皮膚ループスムチン症、Visual Dermatology 2: 30-31, 2003
58. 上中智香子、廣井彰久、上出康二、古川福実：トリアゾラム大量服用後に認められたコンパートメント症候群の一例、臨床皮膚科　57: 49-51, 2003
59. 西出武司、櫻根幹久、古川福実：オメプラゾール内服および H.pylori 除菌療法中に発症した薬疹の一例、臨床皮膚科　57：675-678, 2003
60. 古川福実、池田高治：全身性強皮症に合併した逆流性食道炎の自覚症状に対する酸分泌抑制剤の臨床評価、新薬と臨床　52: 1286-1292, 2003
61. 西出武司、吉益　隆、池田高治、大谷稔男、上出康二、山本有紀、古川福実： サンスクリーンの光線過敏性・毒性に対する防御作用　１．ヒト培養表皮細胞に対する検討、日本美容皮膚科学会雑誌 13: 92-95, 2003
62. 池田高治、西出武司、吉益　隆、大谷稔男、上出康二、山本有紀、古川福実：サンスクリーンの光線過敏性・毒性に対する防御作用　２．MRL/lpr マウスを用いた検討、日本美容皮膚科学会雑誌 13: 96-100, 2003
63. 山本有紀、西出武司、上出康二、古川福実： 血管肉腫に対するフェノール塗布の組織学的変化、日本美容皮膚科学会雑誌　13: 176-179, 2003
64. 池田高治、古川福実：本当の蝶形紅斑とは、medicina　40：984-986, 2003
65. 大谷稔男、古川福実：TEN/Lyell 症候群、アレルギー科　15: 387-390, 2003
66. 古川福実、高木清孝、橋爪秀夫：皮膚疾患におけるリンパ球機能検査、臨床検査　47: 1023-1029, 2003
67. 古川福実、池田高治：皮膚科におけるステロイド骨粗鬆症に対する予防的治療の実態、臨床と薬物治療　22：1008-1011, 2003
68. 立花隆夫、古川福実、宮地良樹：皮膚潰瘍・褥瘡治療の再生医療、Geriat Med. 41:1779-1784, 2003
69. 古江増隆、古川福実、秀　道広、竹原和彦：日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎治療ガイドライン 2004 改訂版、日本皮膚科学会雑誌　114:135-142, 2004
70. 米井　希、山本有紀、上出康二、古川福実：好酸球肉芽腫の所見を伴った巨大石灰化上皮腫の一例、皮膚臨床 46:332-333, 2004
71. 古川福実、大谷稔男、西出武司、金

原彰子、島影達也、辻岡　馨、廣井彰久、秋岡嘉美：アトピー性皮膚炎患者に対するベシル酸ベポタスチンの有効性、安全性の検討．新薬と臨床53：416-426，2004
72. 瀧川雅浩、川島　眞、古江増隆、飯塚　一、伊藤雅章、中川秀己、塩原哲夫、島田眞路、竹原和彦、宮地良樹、古川福実、岩月啓氏、橋本公二、片山一朗：AD　Forum：世界のオピニオンリーダーを対象としたアトピー性皮膚炎の調査結果．臨床皮膚科　58：312-317，2004
73. 古川福実、松永佳世子、伊藤正俊、上田説子、菊地克子、戸佐真弓、船坂陽子、宮崎孝夫、久野有紀、山本有紀、岸岡亜紀子、北島康雄、古江増隆（日本皮膚科学会ケミカルピーリングガイドライン2001改訂に関する検討委員会）：日本皮膚科学会ケミカルピーリングガイドライン2004、日本皮膚科学会雑誌　114：953-957，2004
74. 中川秀己、相場節也、朝比奈昭彦、飯塚　一、五十嵐敦之、梅沢慶紀、江藤隆史、大槻マミ太郎、小沢明、滝川雅浩、中山樹一郎、水谷仁、根本治、古江増隆、古川福実、森田明理、矢口均、両角國男：シクロスポリン MEPC による乾癬治療のガイドライン２００４年度版コンセンサス会議報告、日本皮膚科学会雑誌　114：1093-1105，2004
75. 西出武司、金原彰子、古川福実：皮膚科治療における患者満足度ーアトピー性皮膚炎教育入院を通して、Medico 35: 214-216、2004
76. 中村智之、島影達也、久徳茂雄、黒岡定浩、南方竜也、神田栄光：MR マイクロスコピーによる皮膚腫瘍の術前評価特に tumor thickness に関して、臨床皮膚科　58: 404 -409, 2004
77. 上中智香子、上出康二、廣井彰久、古川福実、川口雅功：クワシオルコール症候群の１例、臨床皮膚科　58:411-413, 2004
78. 岸岡亜紀子、山本有紀、古川福実：「日本皮膚科学会ケミカルピーリングガイドライン 2001」に関するアンケート調査第２報　岡山県および和歌山県皮膚科医会会員を対象として．日本美容皮膚科学会雑誌 14：59-63, 2004
79. 貴志知生、豊澤聖子、山本有紀：電撃傷、皮膚病診療 26：739-742、2004
80. 古川福実、吉益　隆: タクロリムス軟膏，SLE に奏効した 1 例、Visual Dermatology 3: 822-823, 2004
81. 古川福実、櫻根幹久，小出まさよ: タクロリムス軟膏，乾癬に奏効した例、Visual Dermatology3: 818-8219, 2004
82. 大谷稔男　金内日出男　石井崇子　辻岡 馨　古川福実：顔面のアトピー性皮膚炎治療における抗アレルギー薬の有用性 - 顔面の皮疹に対するタクロリムス軟膏の減量維持効果 - 、皮膚の科学 3：316-322, 2004
83. 古川福実、岸岡亜紀子、金内日出男：アトピー性皮膚炎の掻痒に対する第二世代抗ヒスタミン薬の効果発現について、新薬と臨床　53：872-877, 2004
84. 米井　希、櫻根幹久、浜　喜和、山本有紀、上出康二、古川福実、高木　正：腹部有茎皮弁にて再建した右第１指の壊疽性膿皮症後瘢痕．日本皮膚外科学会雑誌　8: 102-103, 2004
85. 貴志知生、中瀬幸穂、古川福実：spiradenoma?の 1 例、第 4 回浜名湖皮膚病理研究会記録集、pp.1, 9, 2004
86. 岸岡亜紀子、西出武司、金原彰子、山本有紀、古川福実、中峯寛和、小野一雄：左前胸部腫瘤の一例、第 4 回浜名湖皮膚病理研究会記録集、pp.1,10, 2004
87. 古川福実、岸岡亜紀子、金内日出男：

アトピー性皮膚炎の掻痒に対する第二世代抗ヒスタミン薬の効果発現について、新薬と臨床　53：1203-1209, 2004
88. 古川福実、上出康二、大谷稔男、山本有紀、貴志知、西出武司、岸岡亜紀子、酒井　亜、池田高治、中村智之、金内日出男、太田　智秋、辻岡　馨、石田勝英、米井　希、金原彰子、廣井彰久、瀬川　陽一、秋岡　嘉美：高齢者皮脂欠乏性湿疹に対する塩酸フェキソフェナジンの有効性及び安全性の検討、新薬と臨床　53：1203-1209, 2004
88. 大谷稔男、岡本勝行、山本有紀、古川福実：著明な好酸球増多症を伴い、急速に手足の壊疽を生じた１例、アレルギーの臨床　24:976-978, 2004
89. 広井彰久、上出康二，古川福実：メシル酸イマチニブ（グリベック）が原因と考えられた TEN の一例，日本皮膚アレルギー学会雑誌　12:87-90
90. 酒井　亜紀、山本　有紀、岸岡　亜紀子、米井　希、古川　福実：ざ瘡のケミカルピーリングによる治療効果と心理的影響について（ＳＴＡＩ）日本美容皮膚科学会雑誌 14：2004
91. 米井　希，山本有紀，上中智香子，岸岡亜紀子，酒井亜紀，古川福実：尋常性ざ瘡に対するグリコール酸ケミカルピーリングと抗生剤内服療法、日本美容皮膚科学会雑誌 14：2004

学会報告

a) 国際会議

Special lecture
1. F Furukawa: Dermatology-based chemical peeling. The 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology , China, 2002. 12. 6-8.
2. Fukumi Furukawa: Animal models of lupus erythematosus, First International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus in cooperation with the American College of Rheumatology (ACR) Response Criteria Committee on SLE, Duesseldorf, Germany, September 1 - 5, 2004

Symposium
1. F Furukawa: Murine models of cutaneous lupus, 20th World Congress of Dermatology, Paris, 2002. 7. 1- 5.

Presentations
1. Kanehara S, Kishi T, Ohtani T, Aioi A, Uede K, Furukawa F: Clinical effects of gamma-linolenic acid coated undershirts on children with atopic dermatitis, 63rd Annual Meeting of Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, 2002.5.15-18
2. Yoshimasu T, Hiroi A, Seo N, Ohtani T, Furukawa F: Cytokine productions of a model for fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR alpha chain knockout mouse, 63rd Annual Meeting of Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, 2002.5.15-18
3. Uede Koji, Hiroi Akihisa, Nakamura Tomoyuki, Kishi Tomoo, Furukawa Fukumi: Low dose Ultraviolet A1 (340-400 nm) phototherapy for erythrodermic cutaneous T-cell lymphoma, First Asian Conference on Photobiology, Awaji, 2002. 6. 26-28.

4. Yoshimasu T, Hiroi A, Seo N, Ohtani T, Furukawa F: Cytokine productions of a model for fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR alpha chain knockout mouse, First Asian Conference on Photobiology, Awaji, 2002. 6. 26-28.

5. Y Yamamoto, N Yonei, C Kaminaka, T Kishi, K Uede, F Furukawa: Chemical peeling for the aged patients with skin cancer, 20th World Congress of Dermatology, Paris, 2002. 7. 1-5.

6. Y Yamamoto, N Yonei, C Kaminaka, T Kishi, K Uede, F Furukawa: Chemical peeling for the aged patients with skin cancer . The 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, China, 2002. 12. 6-8.

7. Kishi T, Yamamoto Y, Furukawa F: A case of fascciitis panniculitis syndrome. The 7th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, China, 2002. 12. 6-8.

8. A Shiotani, M Sakurane, F Furukawa. Helicobacter pylori - positive patients with pruritic skin diseases are a high-risk group of gastric cancer. EHPSG 15th International Workshop Gastroduodenal Pathology and Helicobacter Pylori, Athens Greece, 2002.9.12.

9. Yoshimasu T, Furukawa F, Ohtani T, Hiroi A, Seo N: Th1 predominance of fluorouracil-induced discoid lupus erythematosus in TCR α chain knockout mouse. 4th International Investigative Dermatology, 2003.4.30-5.4, Miami

10. Ikeda T, Uede K, Hasizume H, Furukawa F: Etretinate improves sclerotic skin of systemic sclerosis. 4th International Investigative Dermatology, 2003.4.30-5.4, Miami

11. Yamamoto Y, Ohtani T, Uede K, Furukawa F, Yonei N, Kaminaka C: Phenol and trichloroacetic acid peeling is a new tool as non-invasive therapy to the aged patients with skin cancer. 4th International Investigative Dermatology, 2003.4.30-5.4, Miami

12. Takaharu Ikeda, Koji uede, Hideo Hashizume, Fukumi Furukawa: Clinical improvements of skin sclerosis of systemic sclerosis by vitamin A derivative etretinate. 5th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium, 2002.6, Yamaguchi

13. T. Yoshimasu, A. Hiroi, N. Seo, T. Ohtani, and F. Furukawa: Th1 predominance of Fluorouracil-induced Discoid Lupus Erythematosus in TCR α Chain Knockout Mouse., The Montagna Symposium, "Stem Cells in Skin." June 15, 2003 Snowmass Village, Colorado

14. Yamamoto Y, Uede K, Sakai A, Furukawa F: Change of epidermal Langerhans cells in chemically peeled skin, 8th International Workshop on Langerhans Cells, 2003. 9. 5-7, Tokyo

15. Minami Y, Uede K, FurukawaF,

Sagawa K, Kimura A, Tsuji T: Coexistence of eccrine and apocrine differentiation in a cutaneous mixed tumor. Immunohistochemistry of C8/144B and Dermcidin, Australiasian College of Dermatologists and the Japanese Dermatological Society. 2003. 9.18 - 21, Ayers Rock, Northern Territory, Australia.

16. Yamamoto Y, Sakai A, Yoshimasu T, Furukawa F: P-cadherin Expression in Skin Peeled with Phenol or Trichloroacetic Acid (TCA). American Academy of Dermatology 62nd annual meeting, 2004. Feb 6-11, Washington DC

17.NishideT, Yoshimasu T, Seo N, Ohtani T, Uede K, Furukawa F: Thecytokine profiles in skin lesion of drug-induced DLE model mice treated with UVB light and fluorouracil. Drug Hypersinsitivity Meeting, 2004. May 5-8, Bern

18.Ohtani T, Toda K, Furukawa F: Cardiovascular drug hydralazine inhibits proliferation and induces apoptosis in vascular endothelial cells in vitro. Drug Hypersensitivity Meeting, 2004. May 5-8, Bern

19. Toshio Ohtani, Fukumi Furukawa : Cardiovascular Drug Hydralazine Inhibits Viability and Induces Apopotosis in Murine Vascular Endothelial Cells. The 6th Asia Pacific Congress of Allergology and Clinical Immunology. 2004.Oct.4-7, Tokyo

20. Yamamoto Y, Uede K, Furukawa F: Effects of alpha-hydroxy acids on human skin: rationale for chemical peeling. 2nd Australian Health and Medical Research Congress 2004. Nov. 22-26, Sydney

21. Shigeo Shinohara, Junko Kamimura, Fumiki Harano,Hideo Tanaka, Sachiyo Igarashi, Mitsuaki Kawamura, Sigekatsu Kawabata, Osamu Takasu, Kohsaburo Wakamatsu, Masahiko Tanaka, Misato Yago, Yasuo Furuta, Noboru Yoshino, Fukumi Furukawa, Makoto Kawasihama, Yoshiki Miyachi: Skin-lightening effects based on accelerated epidermal turnover, The 8th China-Japan Joint Meeting of Dermatology Nov. 12-14, 2004, Kunming, China

22. Kishi T, Toyozawa S, Sakurane M, Furukawa F: A case of metastatic lesion of melanoma reduced by ultrasound-guided ethanol injection therapy, The 8th China-Japan Joint Meeting of Dermatology Nov. 12-14, 2004, Kunming, China

b) 国内学会

特別講演

古川福実：「アトピー性皮膚炎の痒みに対する肌着の役割」第 54 回日本衣服学会総会、2002.11.9 大阪

教育講演

古川福実：皮膚と消化管. 第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16. 京都

山本有紀：ケミカルピーリングによる皮膚がんの治療. 第103回日本皮膚科学会, 2002.4.16. 京都

古川福実：ミニレクチャー： ガイドラ

インに沿ったケミカルピーリング治療. 第 55 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2004.9.11-12. 金沢

シンポジウム

1. 古川福実：難治性要因としての感染症、第 14 回日本アレルギー学会春季臨床大会、2002.3.21 千葉

2. 古川福実：自己免疫疾患克服へのアプローチ「自己免疫疾患と光線過敏」2002.3.9 東京

3. 古川福実：シンポジウム「自己免疫疾患の治療指針 ー治療法の選択とタイミングー」、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.16. 岐阜

4. 古川福実：アトピー性皮膚炎治療の進歩 シンポジウム４ ステロイド軟膏とタクロリムス軟膏の適正使用ガイドライン、第 53 回日本アレルギー学会、2003.10.23、岐阜

5. 山本有紀：ケミカルピーリング、第 19 回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会、シンポジウム美容皮膚科を始めよう、2003.4.20、京都

6. 山本有紀：ケミカルピーリングの組織学的変化、第 67 回日本皮膚科学会東部支部総会・学術大会、シンポジウム Cosmetology up-to-date 、2003.9.29、旭川

7. 山本有紀：シンポジウム「ケミカルピーリングはなにができるか？」 第 54 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9、大阪

8. 古川福実：シンポジウム 膠原病関連病態 「成人発症Ｓｔｉｌｌ病」 第 54 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9、大阪

9. 山本有紀：皮膚腫瘍への応用の試み、平成 15 年度日本皮膚科学会中部支部生涯セミナー「皮膚科学に基づいたケミカルピーリング」、2003.7.6. 大阪

10. 上出康二：教育講演「ＵＶＡ療法」第 54 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、2003.11.8-9、大阪

11. 古川福実：ケミカルピーリングへの皮膚科医のスタンス、 第 20 回日本臨床皮膚科医会近畿支部学術学会, 2002.7.11. 大阪

12. 大谷稔男：シンポジウム 薬疹の遺伝子診断. 第55回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2004.9.11-12. 金沢

全国学会

1. 池田高治、大谷稔男、上出康二、古川福実：疾患特異的自己抗体を見ずに間質性肺炎が進行した SLE の 1 例、第 25 回皮膚脈管・膠原病研究会、2002.1.31 鹿児島

2. 櫻根幹久、古川福実：アトピー性皮膚炎におけるＩｇＥ 型抗ヘリコバクター・ピロリ抗体、第 14 回日本アレルギー学会春季臨床大会、2002.3.21 千葉

3. 山本有紀、貴志知生、米井 希、上中智香子、上出康二、古川福実：皮膚悪性腫瘍に対するケミカルピーリングの効果、第 101 回日本皮膚科学会総会、2002.6.7-9 熊本

4. 岸岡亜紀子、米井 希、廣井彰久、山本有紀、上出康二、古川福実：巨大脂肪腫の一例、第 101 回日本皮膚科学会総会、2002.6.7-9 熊本

5. 竹原和彦、 飯塚 一、中川秀己、川島 眞、塩原哲夫、江藤隆史、古川福実、松永佳世子、橋本公二、古江増隆：アトピー性皮膚炎治療問題委員会・２年間の活動最終報告、第 101 回日本皮膚科学会総会、2002.6.7-9 熊本

6. 米井 希、山本有紀、廣井彰久、上出康二、古川福実：淡紅色皮下腫瘤を

呈した上口唇の基底細胞癌の一例、第18 回日本悪性腫瘍学会学術大会、2002.6.21　鳥取
7. 廣井彰久、道和百合、大谷稔男、上出康二、古川福実：メシル酸イマチニブ（グリベック）が原因と考えられたＴＥＮ型薬疹の 1 例、第 32 回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会、2002.7.20　大阪
8. 大谷稔男、道和百合、中瀬幸穂、廣井彰久、櫻根幹久、古川福実：NAT2の遺伝子型を判定したＳＡＳＰによる伝染性単核球症様薬疹の 2 例、第 32 回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会、2002.7.21　大阪
9. 金原彰子、山本有紀、大谷稔男、上出康二、古川福実：アトピー性皮膚炎に対するガンマリノレン酸付着肌着の効果、第 32 回日本皮膚アレルギー学会総会・学術大会、2002.7.21 大阪
10. 吉益　隆、廣井彰久、大谷稔男、古川福実：TCRα鎖ノックアウトマウスによる薬剤性 DLE モデルのサイトカイン産生に関する研究、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3　京都
11. 大谷稔男、古川福実：弾力繊維性仮性黄色腫（PXE)の ABCC6 遺伝子解析」、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3 京都
12. 山本有紀、上中智香子、米井希、大谷稔男、上出康二、古川福実：TCA あるいはフェノール塗布による基底細胞癌および外陰部ページェット病変の組織学的変化、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3　京都
13. 古川福実：セクションレビユウ、第 27 回日本研究皮膚科学会、2002.8.2-3　京都
14. 米井　希、山本有紀、上中智香子、古川福実、宮崎孝夫：尋常性ざ瘡、毛孔性性苔癬、アトピー性皮膚炎の dirty neck に対するケイセイ jorbi GA ジェルの使用経験、第 20 回日本美容皮膚科学会、2002.9.1 東京
15. 池田高治、上出康二、橋爪秀夫、古川福実：Modified Rodnann TSS score を用いた強皮症の皮膚病変へのエトレチナートの有用性、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.15-16　岐阜
16. 岸岡亜紀子、浜中　宏、辻岡　馨、井田達也、前田直人：遺伝子解析を行った骨髄性プロトポルフィリン症の一家系、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.15-16　岐阜
17. 上中智香子、上出康二、廣井彰久、古川福実、川口雅功：クワシオルコール症候群の 1 例、第 53 回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.15-16 岐阜
18. 小西朝子、藤井秀孝、立花隆夫、錦織千佳子、田中俊宏、戸田憲一、堀口裕治、岡本祐之、古川福実、宮地良樹:尋常性白斑に対する suction blister epidermis graft （ＳＢＥＧ)、第５３回日本皮膚科学会中部支部総会、2002.9.16 岐阜
19. 池田高治、上出康二、古川福実：塩酸テルビナフィンが奏効した治療抵抗性の遠心性環状紅斑の 1 例、第 56 回日本医真菌学会総会、2002. 9. 28-29 東京
20. 上中智香子、廣井彰久、上出康二、古川福実：コンパートメント症候群の水疱ートリアゾラム大量服用後に認められた症例、第 24 回水疱症研究会、2002. 10. 4 千葉県
21. 三木田直哉、櫻根幹久、上出康二、古川福実：乾癬性紅皮症の cyclosporine による維持療法中に生じ